

# ヒョウモンダコ



# 水族館へ行こう!

## 京都大学白浜水族館

23

# 宮崎 勝己

ヒョウモンダコはせいぜい体長10センチくらい。タコとしては大変小さく、かわいらしい。しかし、

# 小粒で派手で危険なやつ

この毒はフグ毒として有名なテトロドトキシンという神経毒で強いまひ症状を起こす。その致死量はわずか2ミリグラム。青酸カリの100倍以上の強さだ。フグ毒は海洋細菌に由来すると言われるが、ヒョウモンダコの毒は自身の腸内細菌が作っているらしい。

ヒョウモンダコは興奮するとコバルトブルー色したリング状の斑紋を、ネオンサインのように激しく変化させて相手を威嚇する。白浜近海での記録はさほど多くないが、瀬戸臨海実験所で行われる臨海実習でも、何年か

模様や色が鮮やかでパイパーにも人気だが、とにかくこのタコには手を出さないことだ。有効な治療法はなく、万一かまれたら、手で毒を絞り出し、呼吸まひが進行する前に人工呼吸器を取り付けるしかない。口で毒を吸い出すようなことは絶対しないように。多くの図鑑では、ヒョウモンダコは墨を吐か

紀南地方のような暖かい海で磯遊びする際は、このタコに気を付けた方がいい。というのもこのタコは、人をも殺傷できる猛毒を持っているから小さくてかわいらしいが猛毒を持つヒョウモンダコ (水槽番号3006)

に一度は採集される。数年前、わたしが担当した中学校の磯観察で、ヒョウモンダコの潜り込んだ岩を手にした生徒を見た時は心底びっくりした。タコを直接触っていなかったので事なきを得たが、「もしかまっていたら」と思つと、今でもぞつぞつする。

ウモンダコは墨を吐かんとされているが、墨吐き情報がいくつかあり、白浜水族館スタッフも現在展示しているタコでそれを自撃している。しかし、その量は少なぐ、とても煙幕に使える代物ではない。よほど自分の毒に自信があるのだらうか。(京都大学講師)